

『一帯一路』とは？

リニューアルしてリフレッシュ！

いつもボンジュールをご愛読いただきありがとうございます。
 読んですっきり♪いまだ聞けない？話題のニュースをお届けするボンジュールが装いにリニューアル。
 皆様の資産運用の一助となる情報を発信してまいります。引き続き宜しくお願いいたします。

「一帯一路」最近良く聞くけれど・・・？

『一帯一路』とは、2013年に中国の習近平国家主席が提唱した中国と欧州を陸上と海上で結ぶ巨大な広域経済圏構想です。

陸路で中央アジアを経て欧州に続く「シルクロード経済ベルト」が『一帯』、南シナ海からインド洋を通り欧州へ向かう「21世紀の海上シルクロード」を『一路』と呼び、沿線には約70カ国、その経済圏の人口は約44億人にもものぼるといわれています。

かつてのシルクロードが、各国の経済を補完し合い発展につながったように「現代版シルクロード」をつくり、インフラ投資や貿易などを活発化することで中国の経済圏を拡大すると共に親中国圏を広げる狙いもあるようです。リーマン・ショック後は、巨額な財政出動によるインフラ投資や不動産投資で景気の下支えをはかってきた中国ですが、一部で過剰投資や過剰生産が問題視されている今、今後の経済成長には新たな原動力が必要なのです。

既に2014年には、この構想を資金面で支える政府系投資ファンド「シルクロード基金」が設立されています。中国が設立を主導したアジアインフラ投資銀行(AIIB)の加盟国・地域は77に達し、巨大経済圏の構築準備は世界の各国を巻き込み、着々と進められています。中国が今年最大の外交イベントとして初めて開催した国際会議「一帯一路フォーラム」には世界29ヶ国の首脳を含む130あまりの国の代表団などが参加しました。

日本も協力します。

安倍首相は今年5日『一帯一路』について、同構想下でのインフラ整備への協力には「透明で公正な調達」が必要であるなどの注文をつけたうえで「協力をしていきたいと考える」との姿勢を示しました。インフラ整備に魅力を感じる日本企業が同構想に関わることを日本政府は妨げない考えです。加えて、インフラ協力で、インドでの高速鉄道やラオスでの水力発電所、ベトナムでの都市交通などの整備に協力し、安全で環境に優しい「質の高いインフラ」整備を進めるとも話しています。

この巨大な経済圏構想で活躍が期待される企業とは？
 そう、その1つは「インフラ関連企業」といえそうですね。

一帯一路(イメージ図)



出所：香港特別行政区政府の資料を基にピクテ投信投資顧問作成

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。